

貴重書紹介 —『エジプト誌』—

タイトル全文は、“Description de l'Égypte, ou, Recueil des observations et des recherches qui ont été faites en Égypte pendant l'expédition de l'armée française”（『エジプト誌、フランス軍の遠征中にエジプトでなされた観察と研究の集成』）。ナポレオンは、エジプト遠征において、軍隊とは別に考古学者、博物学者、天文学者、建築家、数学者、画家など、150 名を超える学術調査団を引き連れ、エジプトの各方面にわたる精緻な調査を行わせました。

調査団によって集められた数々の収集品は、敗戦の結果アレクサンドリア条約（1801 年）により、イギリスに引き渡され、現在は大英博物館に収蔵されています。

しかし、これらの収集品は調査団によって精密な模写と記録が作成されており、これを基として、ナポレオンの皇帝即位後の 1809 年から、ナポレオンの死亡 1 年後の 1822 年にかけて勅命により刊行されたのが本書です。

本文は「古代篇」4 巻、「現代篇」3 巻、「博物篇」2 巻の 9 巻、図版は高さ 70cm を超える大型本で「古代遺物」5 巻、「現状」2 巻、「博物誌」3 巻、「地図」1 巻の 11 巻、計 20 巻で構成されています。

[主な参考図書]

参考図書は図書館に所蔵している本ばかりです。是非 OPAC で検索してみてください。

- ・久重忠夫編『専修大学ミシェル・ペルンシュタイン文庫だより 第9号』（専修大学, 1998）
- ・松嶋明男著『図説ナポレオン：政治と戦争フランスの独裁者が描いた軌跡』（河出書房新社, 2016）
- ・上垣豊著『ナポレオン：英雄か独裁者か』（世界史リブレット人 62, 山川出版社, 2013）
- ・ラス・カーズ著、小宮正弘編訳『セント＝ヘレナ覚書』（潮出版社, 2006）
- ・安達正勝著『図解雑学：絵と文章でわかりやすい!フランス革命：ヴェルサイユ落日からナポレオン配流まで』（ナツメ社, 2010）
- ・アリストア・ホーン著；大久保庸子訳『ナポレオン時代：英雄は何を遺したか』（中公新書 2466, 中央公論新社, 2017）
- ・杉本淑彦著『ナポレオン：最後の専制君主、最初の近代政治家』（岩波新書新赤版 1706, 岩波書店, 2018）
- ・専修大学図書館編『二つのモダン：江戸文化とフランス革命：専修大学図書館特別展』（専修大学図書館, 2009）
- ・ボブ・ブライア, ピーター・ドーマン解説『古代エジプトの栄光：ナポレオン「エジプト誌」図録聚英』（雄松堂出版, 1988）

編集後記

題字の「ぶんこ」の付近（ウグモン、ラ・エ・サント）では、当時激しい攻防が行われたといわれています。高校生の頃には軍隊に所属していたナポレオンの生涯は、「戦」が色濃く表れていますが、今号で彼が手掛けた「知」にも触れてみてください。

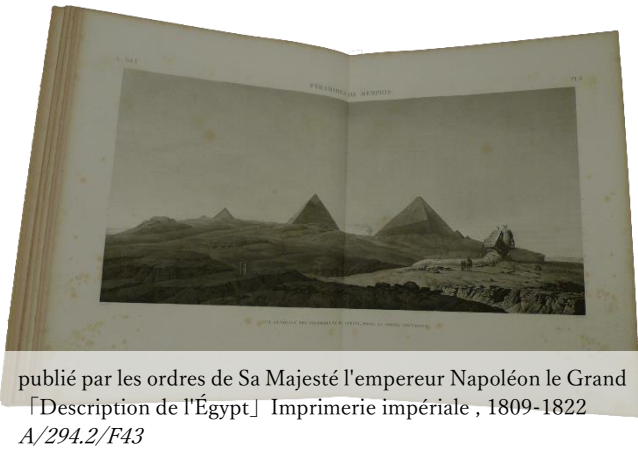
奥付：

専修大学図書館 令和 3 年 11 月 29 日発行
題字：荒川依知

※貴重書のご利用については、「ぶんこ」創刊号をご覧ください。
<https://www.senshu-u.ac.jp/news/nid00006538.html>

『エジプト誌』の図版は、精巧な銅版画で、古代遺物や動植物画には手彩色刷のものも含まれ、今日でさえその再現は困難であるほど、高度な版刻技術と印刷技術をもって作成されています。

『エジプト誌』は、当時のヨーロッパではほとんど知られていなかったエジプトの研究を可能とただけでなく、掲載された古代エジプトの図像がヨーロッパの美術・建築に「エジプト様式」として用いられるなど、多大な影響を与えました。



写真は、Antiquites. Planches, t.5（図版「古代遺物」第5巻）所収ギザのピラミッドとスフィンクスの図。はしごをかけて、スフィンクスの高さを測定している様子が描かれている。また現在と違って、スフィンクスの前足が砂に埋まっていることが分かる。

[教員著作紹介]

『**ナポレオンの柳：西洋人と柳、墓地、ピクチャレスク**』（彩流社, 2021, [K/629/Ku76](#)）

アメリカ研究がご専門の文学部教授 黒沢眞里子先生のご著書です。流刑地セント・ヘレナ島で最期を迎えたナポレオンが埋葬場所として自ら選んだのは、生前よく瞑想した 2 本の柳の下でした。表紙にはその瞑想中の様子が採用されています。

土中で眠るナポレオンを見守っていた柳は、彼の遺品さながら、旅行者達によって挿木が各国に持ち帰られました。挿木は各地で大きく育ち、現在その地のシンボルのような役目を果たしているものも。「ナポレオンの柳」はその生命力ゆえに各地で定着し、さらに世の中へ浸透していきました。ナポレオンが生きた昔から、脈々と現在まで受け継がれる、彼の存在そのものの浸透に重ね合わせることができるといえるようです。

上記以外にも、「柳」で連想される、欧米の墓石・追悼画、ブルー・ウィロー、アメリカの田園墓地などについて論じられています。ぜひお手にとってみてください。

本書の関連論文は「専修大学学術機関リポジトリ：SI-Box」でも公開されています。

西欧文化における柳の研究：

その 1：墓石,追悼画および陶磁器を中心に
<http://doi.org/10.34360/00002238>

その 2：ナポレオンの柳
<http://doi.org/10.34360/00002280>



SI-Box



ワーテルローの戦い布陣図「Compagne de 1815 : Waterloo」Alphonse Dürre, Lir[i.e.b]aire, 1858 ナポレオン関係コレクション /000/Z00/94

誰もが知っている偉人、ナポレオン 1 世

「ナポレオン・ボナパルト」。彼が行ったことを、みなさんはどのくらい知っているのでしょうか？

令和 3 年度、都立高校で一番使われている世界史の教科書『詳説世界史：世界史 B（/375.9/Se11/世 B310・2016）』では、ナポレオンに関する事柄が約 4 ページにもわ

ナポレオンの自己紹介 ～ぶんこに寄せて～

1769 年 8 月 15 日、私は地中海に浮かぶ島、コルシカ島で生まれました。前年の 1768 年にフランスがジェノバ共和国より購入したばかりの島で、イタリア文化圏に属する土地でした。そのため私は生粋のフランス人ではなく、名前の表記も「Napoleone Buonaparte（ナポレオーネ・ブオナパルテ）」でした。「Napoléon Bonaparte（ナポレオン・ボナパルト）」と名乗るようになったのはフランス革命以後のことです。

父カルロと母レティツィアの間に生まれた兄弟のうち、兄ジョゼフ、弟リュシアンがフランス革命に大きく貢献しました。私は子どもの頃から数学がとても得意でした。士官学校をわずか 1 年で卒業、砲兵士官としてフランス革命に参加することになります。1795 年に起こった王党派の蜂起に対し、市街地で大砲を撃つという大胆な戦法により鎮圧に成功、軍司令官に昇進しました。軍人としてのナポレオンはきっと皆さんもご存知でしょう。代表的な戦いは P2-3 の年表に記載しています。

このように戦争で有名な私ですが、エジプト遠征の際に行った学術調査はエジプト学の基礎を築きました。また、後のフランス産業発展の礎となる中央銀行の設立や貨幣統一などの経済政策、宗教政策、民法典の制定、インフラの整備、教育制度の充実などにも力を注ぎ、近代国家の土台をつくったことも評価されているのです。

さらに、戦利品として敗戦国より持ち帰った数々の美術品をルーブル美術館に収集しました。収蔵品は膨大になっていき、当時は館名を「ナポレオン美術館」と改称したこともありました。これらのコレクションは、私の失脚後に大



たって紹介されています。本学では、そんなナポレオンの全盛期から失脚・没後の資料からなる「ナポレオン関係コレクション」を所蔵しています。

今号の「ぶんこ」では、ナポレオンの生涯を教科書とは違った切り口でまとめてみました。あなたの知らないナポレオンに会えるかもしれません。

部分がそれぞれの国に返還されたようですが…。

さて 2021 年、私がこの世を去ってから 200 年が経ちました。おかげさまで私に関する本がたくさん出版されています。興味を持っていただいた方は、本を手になポレオン時代へ思いを馳せてみてください。（フランスはパリの地に眠るナポレオン・ボナパルト）

※私の肖像画もこの本→に載っていますよ。

★Raymond Guyot 「Napoléon」H. Floury, éditeur, 1921
ナポレオン関係コレクション /000/Z00/198



マンガで楽しむ！[ナポレオン]



池田理代子『栄光のナポレオン：エロイカ』（中央公論社, 1997, 生田分館 [K/726/I32/1～12](#)）

ナポレオン・ボナパルトの生涯を描いたマンガを紹介します。

ただの一兵士であった若きナポレオンは、幾度の戦争を経て、たぐい稀なる才能を発揮し、カリスマ性をもつ将軍、英雄として国民から称えられるようになります。「フランスを強い国に」とひたすら志に向かって走り続けましたが、時を重ねるうち、それ以外の野心も持ち始めます。自ら皇帝の地位を手に入れたのちには、その地位に固執するように。戦争で手に入れた地位は、戦争を続けることでしか守れず、長い諸外国との戦いで生活を苦しめられる国民の心は離れ、また権力を持ち過ぎた皇帝に忠誠を尽くす者は政府の中からも徐々に減っていき…。

周りから見離され、陥れられ、それでも終わらないナポレオン！ 何度も第一線に復活し戦う姿の傍には、心打たれてはついでいき、彼のためにと戦う兵士達の存在が必ずあり、ナポレオンは、唯一の魅力を持つまさに「英雄」として描かれています。

史実の中にオリジナルエピソードが織り交じり（フランス革命を描く『ベルサイユのばら（[K/726/I32/1～7](#)）』のキャラクターも登場！）、物語が豊かに展開されています。世界史のおさらいにもうってつけです。

年表でたどるナポレオンの一生

- LIFE OF NAPOLEON -

誕生～軍人ナポレオンの台頭

1769 コルシカ島アジャクシオにて誕生

1779 [9 歳] ブリエヌ兵学校へ入学

1785 [16 歳] ヴァランスのラ・フェール砲兵連隊に着任

[1789 バスチーユ監獄襲撃 (フランス革命勃発)]

1794 テルミドールのクーデター

4 ロシア遠征

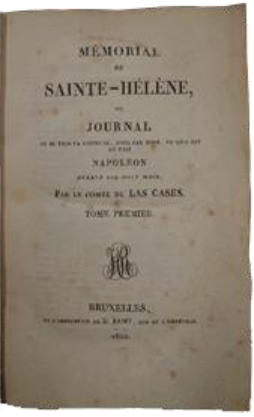
大陸封鎖令に違反したロシアに対する懲罰としてナポレオンが行った戦争。当時、産業革命に成功していたイギリスとの貿易禁止に諸国は不満を抱いており、ロシアは対英貿易を再開していた。ナポレオンはプロイセン、オーストリアと軍事同盟を締結、約 60 万の大兵力で遠征を開始。短期決戦を望んだが、フランス軍はロシア軍による焦土作戦でロシア領内に深く引きずり込まれ、モスクワに到達するも、兵の損失、衰弱が激しく、補給さえままならず退却。さらにロシア軍の追撃とコサックや農民の奇襲にさらされ、例年より早く訪れた冬の寒さと飢餓により壊滅、数十万に及ぶ死傷者を出す大敗北となった。

5 ワーテルローの戦い

イギリス、プロイセン、オランダ連合軍に対し現ベルギーの小村落で行われたナポレオン最後の戦い。エルバ島脱出から権力の座に返り咲いた「百日天下」でナポレオンはヨーロッパ全体を敵に回しており、フランス軍は敗北。ついにナポレオンの支配体制も終焉を迎え、セント・ヘレナ島へ流されることとなる。

6 セント・ヘレナ島で死去

セント・ヘレナ島はアフリカ大陸から約 2800 キロも離れた絶海の孤島。島へはナポレオンの側近であったラス・カーズが随行し、島への道中や生活の様子、毎日のようにナポレオンが語った回顧談を日誌形式で書き留めたものが『セント＝ヘレナ覚書』である。ナポレオンの死後に出版された多くの回想録の中でも版を重ね、ロングセラーとなるにつれて、英雄ナポレオン伝説は人口に膾炙していった。なお初版は 1822 年パリで出版され、本学所蔵本はイギリス、ベルギーで出版されたもの。



「Mémorial de Sainte-Hélène 1-7」H. Remy, 1822
ナポレオン関係コレクション /000/Z00/77:1-7



ヴァンデミエールの反乱 (P1★「Napoléon」より)

ナポレオン時代の到来

1795 [25 歳] 王党派の蜂起 (ヴァンデミエールの反乱) を 1 日で鎮圧

1796 [26 歳] ジョゼフィーヌと結婚

1796-97 イタリア遠征

1798-1801 エジプト遠征 1

1799 [30 歳] ブリュメールのクーデター (フランス革命終結) 2

1800 中央銀行設立

1801 ローマ教皇と宗教協約締結、カトリック教会との和解

1802 レジオン・ドヌール勲章創設

英雄から皇帝へ

1804 [34 歳] 皇帝に即位 フランス民法典の公布 3

1805 トラファルガー海戦 アウステルリッツの戦い

1806 大陸封鎖令：ヨーロッパ大陸諸国に対しイギリスとの貿易を禁止した

1807 ティルジット条約をプロイセン、ロシアと締結

1810 [40 歳] ジョゼフィーヌと離婚、オーストリア皇女マリー＝ルイーゼを妻に迎える

◆こぼれ話1. ナポレオンに関係あるの??

”ナポレオン”の名を冠するものはナポレオンに関係あるのでしょうか。

ちなみに、ナポレオンのトレードマークである帽子は「ナポレオンハット」と呼ばれていますが、正式名称は「二角帽子(ビコーン、Bicorne)」です。

くだもの

ナポレオン：さくらんぼの品種の一つ。ヨーロッパで古くから栽培され、日本でもポピュラー。ナポレオンの死後、彼にちなんで命名されたと言われる。

さかな

ナポレオンフィッシュ：メガネモチノウオの別名。老成魚のこぶ状に突き出した前頭部が、ナポレオンのかぶっていた二角帽子に似ていることに由来する。

おさけ

ナポレオン：ブランデーの等級の一つで、熟成年数が長い最上級のもの。ナポレオンにちなんでその名が使われたとされるが、理由は諸説あり。



おかし

ナポレオンバイ：フランス菓子、ミルフィーユの名称として諸外国では「ナポレオン」が使われている。ナポレオンにちなんだネーミングとされる。日本では、苺のミルフィーユのことをナポレオンバイと呼ぶのが一般的。上に飾られた苺がナポレオンの帽子のようだから、というのが命名の由来と言われている。

1 エジプト遠征

イギリスとインドの貿易ルートを断ち切るため、中継点であるエジプトを征服しようとして行われた遠征。ナポレオン率いるフランス軍は一旦エジプトを征服するが、イギリス軍に撃滅される。その後も遠征を続けるものの戦況は悪化、本国の危機を知ったナポレオンは軍を残したまま帰国する。1801 年に軍は撤退し、遠征は失敗に終わった。軍に同行させた学者や芸術家たちによる調査をまとめたものが『エジプト誌』である (P4 貴重書紹介参照)。また、このとき発見したロゼッタ・ストーンが、古代エジプトの象形文字「ヒエログリフ」解読の鍵となった。

2 ブリュメールのクーデター

当時、総裁政府は国民の信頼を失っていた上に政治的対立に翻弄され、苦境に立たされていた。エジプトから急遽帰還したナポレオンは、戦局悪化と国内政局の動揺を同時に解決する道を模索したが、合法的に国家権力の座に就くにはクーデターを起こすしかなかった。総裁の一人シェイ

1812 [42 歳] ロシア遠征 4

1813 ライプツィヒの戦い

1814 [45 歳] ナポレオン退位、地中海のエルバ島へ追放される

1815 ワーテルローの戦い 5

1821 [51 歳] セント・ヘレナ島で死去 6

失脚～死去

◆こぼれ話2. ベートーヴェンとの意外な関係性?!

ベートーヴェン作曲の『英雄』(交響曲第 3 番変ホ長調 作品 55、1803-04 年作、原題『Eroica』)は、ナポレオンへの共感から作曲され、ナポレオンに捧げるつもりでタイトルをつけていたようです。ところが、ナポレオンが皇帝に即位したことに幻滅したために献呈を取りやめ、表紙の献呈名「ボナパルト」の部分に穴が開くほど強く消してしまった、という逸話が残っています。この作品は非常に革新的な大作であり、交響曲史において大きな転換点となりました。



献呈名に穴が開いた交響曲第 3 番 浄書総譜表紙 (ウィーン楽友協会蔵) [パブリックドメイン]

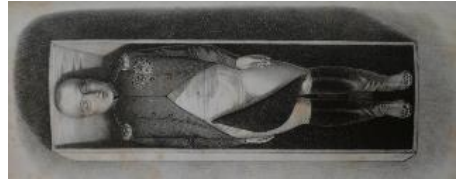
エス、弟のリュシアン、その他有力政治家とともに綿密な計画が練られ、フランス革命暦 8 年霧月 (ブリュメール) 18 日 (1799 年 11 月 9 日) に実行された。ナポレオンは第一統領となり、帝政への第一歩を踏み出した。

3 フランス民法典の公布

1804 年 3 月ナポレオンが制定。1807 年 9 月「ナポレオン法典」と改める。全文 2281 条。1789 年の人権宣言に基づき、特権の廃止、権利の平等、国家の非宗教性、遺産の均分相続などを定め、私有財産の絶対、個人意思の自由、家族の尊重など近代法原理を明確に表す画期的法典である。フランスで最初の近代的な統一民法典であり、その後改正を重ねながらも現行法として存続している。



「Code Napoléon」Clément frères, 1811
ナポレオン関係コレクション /000/Z00/119



棺桶に眠るナポレオン
Las Cases「Journal écrit à bord de la frégate la Belle-Poule」H. L. Delloye, 1841
ナポレオン関係コレクション /000/Z00/79

1840 ナポレオンの遺体、パリに帰還
廃兵院 (アンヴァリッド) のドーム教会に安置される



ナポレオンの遺体を運ぶ葬儀用馬車 (P1★「Napoléon」より)